

令和 7 年 3 月 28 日
国立大学法人滋賀大学
学長選考・監察会議

令和 6 年度に係る学長の業務執行状況の確認結果について

国立大学法人滋賀大学学長選考・監察会議（以下「学長選考・監察会議」という。）は、「国立大学法人滋賀大学学長選考・監察会議規程」第 3 条第 1 項第 3 号及び「学長の業務執行状況の確認に関する基準」に基づき、学長の業務執行状況の確認を行いましたので、その結果を公表します。

1. 確認の経過

令和 6 年度第 4 回学長選考・監察会議（令和 7 年 3 月 14 日開催）において、次の資料及び学長に対するヒアリングを通じて学長の業務の実績を確認した。

- ・国立大学法人滋賀大学学長選考基準（令和 3 年 5 月 31 日公表）
- ・所信表明書〔竹村 彰通〕（令和 3 年 8 月 30 日）
- ・令和 6 年度 国立大学法人滋賀大学 自己点検・評価報告書（令和 7 年 2 月 28 日）
- ・令和 6 年度 自己点検・評価報告会スライド資料（令和 7 年 2 月 28 日）
- ・学長業務実績報告 2024（令和 6）年度〔竹村 彰通〕（2025 年 3 月 14 日）
- ・学長に対するヒアリング（令和 7 年 3 月 14 日）

2. 確認結果

学長選考・監察会議は、学長からの業務実績報告及びその後の質疑応答の結果等を踏まえ、令和 6 年度における学長の業務は適切に執行されていると判断する。

3. 学長選考・監察会議における主な所見

社会との共創分野においては、国内最大規模のデータサイエンス・AI 研究教育拠点であるデータサイエンス・AI イノベーション研究推進センターに社会調査・EBPM 研究部門を開設して活動を拡大し、URA の順次採用により管理運営体制を大幅に強化した。

また、彦根キャンパスの共創拠点化の中心的な役割を果たすイニシアティブ棟が竣工し、さらに滋賀大学ビジネスイノベーションコアリションを設立し、これまで進めてきた産学連携プロジェクトの推進や新たな地域連携事業の中心的な役割を果たす体制を整えた。

教育分野においては、全学的な学部のデータサイエンス教育の体系化により、文部科学省の数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定による多数の認定者を出しておりその成果

が伺える。

また、リベラルアーツ教育では分野横断型コラボ授業科目を新設し、アントレプレナーシップ教育では産学公連携推進機構にアントレプレナーシップ部門を立ち上げ地元経済界の協力を得ている。

研究分野においては、データサイエンス・AI イノベーション研究推進センターを中心とする産学連携研究および研究成果の社会実装がさらに進み、個別の課題解決から企業全体の DX 推進を目指す等、研究が高度化している。これら共同研究に従事する教員へは、インセンティブとして外部資金を活用した研究環境改善費を支給して処遇改善により支援している。

業務運営では、経営協議会においてフリーディスカッション重視の運営をしており、中長期にわたる大学の運営方針について外部委員から有益な示唆を受けることができている。

また、附属学校園の持続可能性と教育の高度化の観点から、附属学校園の改組に取り組んでいる。

なお、さらなる発展を目指して、人口減少が進む中での優秀な学生や教職員の確保のための長期ビジョンの検討、経営人材育成の具体策の提示、彦根キャンパスと大津キャンパスの教職員の交流促進、若手教員（研究者）の増加を要望するものである。